

# イランは存亡をかけた戦争に備えた：トランプとイスラエルの賭けはどこまで？

ドロップ・サイト、3月1日 ジェレミー・スケイヒル&ムルタザ・フセイン著、協浜義明訳

最高指導者ハメネイ暗殺を受け、イランは地域全体で攻撃を強化している。一方トランプは新たな協議と追加空爆を示唆している。



2026年3月1日、イラン・テヘランで行われた追悼集会において、イラン最高指導者アヤトラ・アリー・ハメネイ師の画像が掲げられた横断幕が見られる。ハメネイ師は、米国とイスラエルが2月28日にイランへ共同攻撃を仕掛けた後、死亡が確認された。Photo by Majid Saeedi/Getty Images.

2月28日、ドナルド・トランプ大統領は自分のSNSプラットフォームの Truth Social で、米国とイスラエルがイランの最高指導者アヤトラ・アリー・ハメネイ師の殺害に成功したと発表した。「史上最悪の人物の一人ハメネイは死んだ」とトランプは書いた。「彼是我々の情報機関と高度な追跡システムを逃げ切ることが出来なかった。イスラエルと綿密に協力した我々の作戦のため、彼や、彼といっしょに死んだ他の指導者たちは、どうすることもできなかった。」

3月1日の[ニューヨークタイムズ](#)は、CIA とイスラエルがいかにハメネイ師を追い詰め、「何か月も追跡し」、「彼の居場所と行動パターンについて認識を深め」て、ついに殺害に至ったという陰の物語を報じた、息を呑むような記事を載せた。記事は「作戦について説明を受けた人々は、これはまさに優れた情報収集と何か月にもわたる準備の成果だと述べた」と、記事は誇らしげに主張している。

ハメネイ師の「秘密の居場所」は、結局は彼の執務室だったことが判明した。

米国とイスラエルは、ハメネイ師の潜伏を一貫して主張してきた。「それは、基本的にトランプを実際より大きく、ドラマチックに見せるために捏造したドラマに過ぎない」と、あるイラン高官は、自分にはない問題について語る権限がないので、匿名を条件にドロップ・サイトに語った。

イランの最高国家安全保障会議は「安全のために、ハメネイ師に、移転、執務室の変更、生活環境の調整を進言した」と、イランの高官が言った。「しかし、ハメネイ師は移動に関して全く異なる考えをしていた。余分な安全対策を講じたり、何か変わったことをするのでなく、可能な限り普通の平常通りの生活の維持を主張した。」

最高国家安全保障会議のアリ・ラリジャーニ議長は、イラン政府は米国とイスラエルがハメネイ師を標的にすることは予期していたと言った。「彼らは真っ先にハメネイ師攻撃を決めていた。彼らはその目的を追求しているという分析が軍関係者の間で広まっていた」と、ラリジャーニ議長は、政府がハメネイ師死亡を確認した後、イラン国営TVで語った。

「今回の事件は我々にとって大変悲痛だ」とラリジャーニ議長が付言した。「米国とシオニストは、この行為によって、イラン、イラン人民が『お前たちはイラン人民の心を火傷させた。お返しにお前たちの心を火傷させてやる』と言わざるを得ない状況を作り出した。」

イラン赤三日月社と国営メディアは、3月1日現在で、イラン全土で200人以上が死亡、740人以上が負傷したと暫定報告をしているが、実際の死傷者数はもっと多いと予想されている。[国営イラン通信 \(IRNA\)](#)によると、ミナブの女子小学校への攻撃で165人が死亡した。

米・イスラエルの爆撃から数時間後、イランはイスラエルへ弾道ミサイル発射攻撃を開始、これで少なくとも11人が死亡、数百人が負傷した。3月1日の朝、イランのミサイルがエルサレム近郊のビルに着弾し、防空壕にいた少なくとも9人が死亡したと推定されている。

イランのペゼシュキアン外相は1日、国営TVで声明を発し、「イラン・イスラム共和国はこの犯罪の加害者と指揮官に対する流血と復讐を正当な権利を見做しており、全力でこの重要な責任と義務を果たす」と述べた。

イランはまた、ペルシャ湾全域の米軍基地、UAE、バーレン、サウジアラビア、カタール、ヨルダンの米軍施設に対して、ミサイルとドローンによる継続的攻撃を行った。UAEでは、イランの攻撃で3人が死亡、58人が軽傷を負ったと報告しており、その多くは外国人労働者であると見られる。利用者数の多いドバイ国際空港にも正体不明の飛行体がコンコースの一つに着弾し、被害のため一部閉鎖された。イラクで2人、クウェートで1人死亡した。

米・イスラエルの「オペレーション・エピック・フューリー」(叙事詩的怒り作戦)の間に、この戦争で初めての米軍死傷者が出た。米中央軍は1日早朝の声明で、米兵3人が死亡し、5人の重傷者を含む100人が負傷し、他に軽傷者多数と発表した。米軍はNBCニュースに対し、死亡した兵士を作戦の拠点の一つであるクウェートの基地に運ばれたと言った。

イラン政府は、米・イスラエル攻撃に対する初期対応は前例にない大規模反撃であったが、それはイランの報復能力のすべてではないと言っている。

## 外交的解決はまだ可能か？

2月28日にハメネイ師の執務室への攻撃はイランの政治・軍事機構の最高幹部を殺害し、ハメネイ師の親族数名をも殺害した。イランは、このような攻撃を予測して、数十年前から並列的な指導態勢を構築していたので、新たな指導部を発表した。新暫定指導部には、マスウード・ペゼシュキアン大統領を中心に、司法府トップのゴラム・ホセイン・モフセニ・エジェイ、護憲評議会・専門家会議(これは、イランの最高指導者選出に関して最終責任を負う)の主要メンバーであるアリー・アラフィー師などがいる。

ホワイトハウスによると、トランプ大統領は数日中に、米政府が「新たな潜在的指導部」と呼ぶイランの指導者層と協議するつもりであり、戦争は当初想定したよりも短くなるかもしれないと示唆した。「彼らは協議を望んでおり、私も協議に同意している。もっと早く協議すべきだった。彼らは、非常に現実的で用意に実行できることをもっと早く提示すべきだった。彼らはあまりにも長く待ちすぎた」と、トランプはアトランティック誌に語った。「彼ら合意できたはずだ。もっと早く合意すべきだった。あまりにもええ格好をし過ぎた」と言った。

トランプはTruth Socialへの投稿文で、現時点では「激しい」爆撃を「今週中か必要な限り」中断することなく行うと述べた。

トランプは、事前に録音していた[メッセージ](#)を3月1日の午後に流し、「革命防衛隊、イラン軍、警察に対し、武器を捨てて免責を受けることを改めて勧める。そうしなければ、確実な死を迎えるだろう。それは決定的な死であって、決して楽

ではないだろう。私は、自由を求めるすべてのイランの愛国者たちに、この機会を利用して立ち上がることを呼びかける」と言った。

同じように、イスラエルのネタニヤフ首相も攻撃を拡大すると言った。「今後数日間、テロ政権国家の数千の標的を攻撃すると、彼はSNSに投稿したビデオの中で言った。「我々は、勇敢なイラン国民が王政の鎖から自らを解放する条件を作り出すのだ。トランプも、米・イスラエルの爆撃と要人殺害をきっかけに民衆蜂起が起きるものと考えていると言っている。「蜂起はきっと起こるだろう」と、彼はアトランティック誌に語った。

ジョージタウン大学中東研究所のシナ・アゾディ所長は、「ハメネイ師が殺害されれば民衆が政権転覆を求めて街頭に繰り出すと、多くの人が言ってきたが、今のところそれは起こっていない。歓声を上げたのは一部だけで、全体的に見て、イラン体制は大変強固だ」と言っている。イスラエルがこれまで試みてきたのは、敵国の最高幹部の首を切り落とせば、体制は翌日に崩壊するという見込みであった。これは、非国家主体に対しては有効かもしれないが、粘り強く、憲法があり、国家設立当初から指導者暗殺や戦争を経験した国家主体には有効ではない」と語った。

イラン系米国人の政治アナリストのフーマン・マジドは元イラン大統領のモハメド・カタミの顧問を務めた経験がある人物だが、彼は、軍上級司令官を含む1,000人以上のイラン人が殺害された昨年6月の12日間戦争以来、米・イランによる大規模攻撃があると予測して備えを固めていたと述べた。「軍指導部は、正規軍、イラン革命防衛隊、海軍のいずれにおいても、強い態勢を整えてきた。彼らは戦争継続に対応する能力、米国が望むよりも長く戦争を続ける能力がある」と、マジドは[ドロップ・サイト](#)に語った。「そのうち、戦争の出口を求めているのは自分だとトランプが悟る時がくるだろう。」

マジドは、イランがペルシャ湾の石油インフラを標的にしたり、ホルムズ海峡を完全封鎖すれば、経済的な影響は甚大になると言った。「米国と欧州経済への長期的打撃は誰も望んでいない。もちろん、トランプも望んでいない。だから、戦争の出口があればトランプにとってありがたいのだ。もし、トランプが、イランが降参して『もうたくさんだ。お前たちは欲しいものはなんでもやる』と言うと本気で思っているなら、とんでもないものねだりだ」と語った。

イランの方は外交交渉による問題解決に以前として前向きだと言っており、2月28日朝に始めた攻撃の前に米国が口にしていた交渉とか協議は「欺瞞」であったと[非難している](#)。3月2日には技術的協議をウィーンで行うと予定であった。米国とイランの協議の主な仲介役を務めたオマーンのバドル・アル・ブサイディ外相は3月1日、自分はイランのアッバース・アラグチ外相と協議について会談したとのべた。ブサイディは声明を出し、停戦を求め、アラグチがイランは『エスカレーションを止め、地域安定に貢献する真剣な努力に前向きである』と自分に語ったと述べた。

3月1日にABCの番組「This Week」に出演したアラグチ外相に、司会者のジョージ・ステファノプロスが「外交的解決はまだ可能か」と質問した。アラグチは「あなたがその質問に教えてください」と即座にボールを打ち返した。「過去12カ月で米国と2回交渉しましたが、どちらの場合も交渉の最中に攻撃されました。これは私たちにとって非常に苦い経験となっています。」

テヘラン大学のフォアド・イザディ教授は、イラン軍は所有している超音速ミサイルや長距離弾道ミサイルなどの強力な兵器システムを、まだイスラエルや米軍の中東各地に基地や米艦隊への報復攻撃に使用していないと言った。停戦とか外交交渉再開などに向けた意味ある動きが見られない場合、イランはそれらを使う軍事的対応を強化する可能性があると言った。「イランの指導者たちはそれら使わなければ攻撃で破壊されて失うことになると考えています。イランは一定の攻撃能力を持っており、米とイスラエルはその能力を破壊しようと攻撃しています。だから、イランはその能力を使える間に使おうとするのは当然です」と、イラン政府の有力な支持者であるイザディ教授はドロップ・サイトのインタビューで語った。「イランは基本的に、どれだけの能力を、いつ使うかを見極める必要があります。あまり長く待てば、これらの備蓄兵器が破壊される恐れがあることを考えなければなりません。しかし、上級司令官を失うと、その意思決定が困難になります。」

## イランの湾岸攻撃

湾岸諸国は、自国領への攻撃を「イランの侵略」と非難するのに、自国領内の米軍軍事施設や情報機関施設を利用して米軍がイランを攻撃していることを停止せよという要求はしていない。

現在のイランの戦略を指揮している主要人物の一人であるラリジャーニ議長は、「地域諸国の皆さんへ。我々はあなた方を攻撃しようとしているのではありません」と声明で言った。「貴国領にある基地が我々への攻撃に利用され、米国が基地の部隊に依存して中東地域作戦を展開するならば、我々がその基地を標的にするのは当然である。それらの基地は貴国の領土ではなく、米国の領土である」と、彼はXに書いた。

しかし、イランは米軍基地だけを攻撃したのではない。クウェート、バーレン、アブダビ、ドバイの民間空港や、UAEとバーレンの高級ホテルなどの建物も攻撃した。「我々が基地攻撃を始めると、彼らは避難して、ホテルへ入って、民間人を人間の盾にしている」と、アラグチはアル・ジャジーラのインタビューで言っている。「我々は軍人とイランに対する軍事行動を支援する施設だけを標的にするよう努めている。」

3月1日には、米・イラン交渉で中心的な仲介役を務めたオマーンの港もイランの攻撃を受けた。アラグチは、それはオマーン攻撃を意図したものでなく、戦争前に、戦争が始まったら米軍艦船が停泊する標的として、事前に選定していた結果だと説明した。「我々は軍に標的選択は慎重になれと指示している」とアラグチはアル・ジャジーラに語った。「イラン軍は事前に指示された一般的指示に基づいて行動しているが、部隊は事実上独立し、ある意味では孤立している」と言った。

サウジアラビア王国は2月28日にイラン大使を召喚し、自国領土を標的にした「卑劣なイランの攻撃」を非難する声明を出した。UAEのリーム・アル・ハシミ国際協力担当国務大臣は、3月1日のCNNとのインタビューで、UAEは「傍観しない」と述べ、イランに対して戦闘的姿勢を示した。UAEはテヘランの自国大使館を閉鎖し、大使と外交官を撤退させたと発表した。

湾岸諸国協力理事会（GCC）は3月1日にビデオによる臨時会合で、GCC諸国とヨルダンに対する「イランの裏切り行為」を非難し、「攻撃に対応」する選択肢を含め、「自国の安全と安定を守るために必要なあらゆる措置」を講じると言った。GCCは、「GCC諸国の領土をイランの攻撃に使わせないと繰り返し保証した」にもかかわらず攻撃されたと主張して、国連安保理に断固たる行動をとれと要求し、「湾岸地域の安定は地域的懸念問題であるだけでなく、世界経済の安定と海上交通の礎でもある」と言った<sup>1</sup>。

アラグチは、アラブの隣人たちは「米国とイスラエルに怒りを向けるべきだ」と述べ、「戦争をやめよとイランに圧力をかけるのでなく、戦争を始めた米国とイスラエルに圧力をかけるべきだ」と言った。

国際的アナリストたちは、戦争初期段階でイランの報復攻撃の対象となった標的の一部は、イラン情報機関がイスラエルの諜報機関や兵器企業とその人員が駐留していると判断したところだと指摘している。バーレーンの米国大使館は、イランのマナマのクラウンプラザ・ホテル攻撃を受け、政府職員をホテルから避難させ、米国民にホテル利用をやめるように警告した。

イランの上級高官はドロップ・サイトのインタビューで、「前の12日間戦争の後、新たな地域戦争脅威が高まったので、治安機関と軍事機関が共同で、もし戦争になった場合に備えて、米国とイスラエルの部隊と兵員への攻撃標的を作成した」と言った。「彼らの一部の拠点や所在地を特定していたので、反撃の時に不意を突くことができた。攻撃の精度は日ごとに正確になっている」と自慢したが、イランが攻撃した施設にイスラエルの諜報機関施設や人員が駐留していたという確証はない。

イザディは、「UAEには多くのイスラエル諜報機関や兵器企業の拠点があり、それらはイスラエルそのものなので、イランは正当な攻撃標的と見做している」と言った。「UAE政府は、イスラエルがUAE領内各地に非公式基地を置くことを、事実上認可している。イスラエルによるイランへの軍事行動はUAEから実行されているため、イランはずっと監視してきた。」

イスラエル放送局は「3月1日、イランのドローンがアブダビのイスラエル大使館近くのイスラエル人居住アパートメントを攻撃したと報じた。UAEはイスラエルと国交正常化した数少ないイスラム国で、両国の支配者はしばしば緊密な関係を公けに祝っている。

ブルジュ・アル・アラブ・ホテル（ドローン攻撃を受けたと報じられている）などUAEの象徴的な建物などの攻撃が続く中、衛星画像によると、ジェベル・アリ港の係留施設では、空中で迎撃されたミサイルの破片の落下で複数の火災をが生

---

訳注1：イスラエルと米への非難はない。

じているのが見える。ジェベリ・アリ港は中東最大のコンテナ船の港で、UAE経済の重要拠点である。港の運営会社DPワールドは港湾操業を一時停止すると発表した。

3月1日、フランス、ドイツ、英国の首脳は、米・イスラエルのイラン戦争に直接介入することを示唆する共同声明を発表した。「イランのミサイルとドローンの発射能力を発射源で破壊するために必要な相応の防衛措置をとって、地域における我々と我々の同盟国の利益を守る行動をとる」と声明が述べている。「我々はイラン問題について、米国と地域同盟国に協力することに同意した。」

国家存亡の戦争に直面しているイランは、ペルシャ湾の石油施設への攻撃など、世界経済への攻撃で報復するという、前々から示唆していた戦術で反撃している。UAEのジェベリ・アリ港への攻撃や、戦略的に重要なホルムズ海峡では、過去24時間以内にタンカーを含む2隻の船舶を攻撃した。イラン政府は、世界の石油・ガスの約20%が通るホルムズ海峡を封鎖、船舶に通過しないように警告した。3月1日時点で、少なくとも150隻の石油タンカーを含む200隻以上の船舶が水路の外に停泊したままになっている。ホルムズ海峡の商業航行量は70%も減少した。原油価格はすでに10%以上上昇し、1バレル80ドルを超えており、事態がエスカレートすれば100ドルを超えるかもしれない。

中東政治研究者ノシナ・マゾディは、「イランにとっての唯一の選択肢は、攻撃を継続して、米国とその同盟国のコストを増大させる戦略である。コストを増やす戦略の一部として、GCC諸国への攻撃や地域の米軍基地への攻撃が行われている。3人の米兵が死亡した（3月3日には6人が死亡。イスラエルでも数十人が死亡）のもコスト増の一環。中間選挙を控え、トランプ政権は米国人の死亡や経済への悪影響に神経質になっているのを、イランは知っている」と言った。「イランにとって理想的シナリオは、3～4週間の戦闘が続き、明確な勝者が出ない状態である。イランはあらゆる方法で圧力を強めている。戦争に勝つことはできないが、多くの打撃を受けながらそれを吸収して、戦争を長引かせて、米国をコスト増で疲弊させ、米国を戦争終結へと追い込むことだ。」